

# フィリピンにおける台風30号による被害概要及び我が国の対応等 (11月21日(木)22時現在)

平成25年11月21日  
外務省南東アジア第二課

## 【ポイント】

- 邦人被害の情報は現時点でなし(被害が大きかったレイテ島・サマール島において無事が確認された邦人は、両島合わせて133名中128名)。
- 我が国の支援として①国際緊急援助隊・医療チームの派遣、②自衛隊の派遣、③3,000万ドルの緊急無償資金協力、④緊急援助物資の供与(6,000万円相当まで)等を決定。これまでの我が国の支援総額は約5,210万米ドル(約52.1億円)。
- 国際緊急援助隊・医療チームは、12日以降レイテ島入りし、15日より、医療活動を実施中。
- 自衛隊はタクロバン及びセブ北部にて医療活動を実施。また、18日からC-130輸送機2機が現地で物資の輸送等を実施。約1,180名への増員を決定し、22日、艦艇3隻がレイテ島周辺に到着予定。
- 19日、邦人保護及び被災地支援を強化するため、タクロバン市内に、在フィリピン大使館の臨時事務所を設置。

## 1. 被害状況 (21日午後7時(日本時間)フィリピン政府発表)

- 死者数:4,011名 負傷者数:18,567名 行方不明者:1,602名
- 被災者数 :10,023,075名(2,157,726世帯)
- 避難者数 :4,324,963名(919,830世帯)
- 被災家屋 :1,070,358棟(うち全壊:364,887棟、半壊:344,368棟)



## 2. 邦人保護

- (1) 21日13時現在では邦人被害の情報には接していない。引き続き現地公館による確認作業を進めている。
- (2) 在フィリピン大使館員、本省の職員らが被災地レイテ島タクロバン市市役所内に拠点(ジャパンデスク)を設け、邦人の安否確認や邦人保護活動(島外への退避支援を含む)を継続中。
- (3) 在留邦人は、特に被害が大きかったとされるレイテ島(2州)に113名、サマール島(3州)に20名。21日13時までには、無事が確認された邦人は、両島合わせて133名中128名。

## 3. フィリピン政府の対応

- (1) 8日、アキノ大統領は被害の大きいレイテ島とサマール島を優先して支援する旨表明。ガズミン国防大臣及びロハス内務自治大臣は、被災直後から被災地で陣頭指揮にあたっており、アキノ大統領も、10日、被災地(レイテ島タクロバン市)に入った。同大統領は、18日にも現地入り。
- (2) 11日夜、アキノ大統領は、救援・支援活動の迅速化を図るため、「国家災害宣言」(State of National Calamity)を発出した。

## 4. 我が国の対応

### (1) 国際緊急援助隊・医療チームの派遣

- ア 10日、外務省及びJICAの各1名から成る調査チームを派遣。
- イ 11日、25名の国際緊急援助隊・医療チーム(JICA職員を団長とし、救急医療等を専門とする医師・看護師により構成)を派遣。15日より、本格的に計27名(追加派遣2名を含む)がタクロバン市にて医療活動を継続中。また、18日よりサマール島バセイ市においても医療チームの一部により医療活動が開始された。
- ウ 7日から、国連等援助機関との調整のため、JICAコンサルタントが国連災害評価調整チーム(UNDAC)に派遣(9日早朝にタクロバン入り)され、11日に医療チームに引き継ぎを行った。
- エ 20日、国際緊急援助隊・医療チーム第二次隊が出発し、21日にタクロバン入りした。第二次隊は活動中の一次隊と交代し、引き続き医療活動を行う予定。

### (2) 国際緊急援助隊自衛隊部隊の派遣

- ・ 12～14日までに、50名が順次、フィリピン入りし、15日から17日までタクロバンにて医療活動を実施。17日以降、セブ島北部において医療活動等を実施。また、13日、輸送機KC-767が医療資機材等をセブに輸送。
- ・ 15日、派遣部隊の定員を50名から最大約1,180名に増員することを決定。
- ・ 16日及び17日、C-130・2機が小牧空港を発ち、マニラに到着。18日からマニラ＝パナイ島ロハス、タクロバン等の間で救援物資や被災民、燃料等の輸送を実

施。

- ・ 17日に補給艦「とわだ」が、また、18日午後には輸送艦「おおすみ」、護衛艦「いせ」が本邦(呉港)を出発。22日頃、レイテ島周辺に到着予定。
- ・ 19日、KC-767が兵庫県からの救援物資(紙おむつ約1トン)をセブへ輸送。

### **(3) 緊急無償資金協力・緊急物資支援等**

これまでに、以下のとおり総額約52.1億円の支援を決定。

- ア 12日、国際機関を通じ、計1,000万ドルの緊急無償資金協力を実施することを表明。さらに15日、計2,000万ドルの緊急無償資金協力の追加実施を決定(緊急シェルター、食料、水・衛生分野等。国連世界食糧計画(WFP)を通じた米等約5,500トンの食料の幼児・妊婦を含む被災者12.5万人への配布など。)
- イ 12日、ビニールシート、スリーピング・パッド等、6,000万円相当までの緊急物資をフィリピンに供与することを決定。19日までに、その大部分を被災地へ引き渡した。
- ウ NGOからの支援としても、自然災害等に対する緊急人道支援を行うジャパン・プラットフォーム(JPF)が1.5億円規模の支援を決定。
- エ 13日、アジア開発銀行(ADB)貧困削減日本基金による2,000万ドルの無償支援を決定。

### **(4) お見舞いメッセージの発出・体制の強化等**

- ア 10日、安倍総理からアキノ大統領に、岸田外務大臣からデル・ロサリオ外務大臣に対しお見舞いメッセージを発出。
- イ また11日、出張中の岸田大臣は、ASEM 外相会合(於:インド)において、お見舞いととも、緊急援助チームの派遣等の我が国の対応を説明。
- ウ 13日、フィリピンにおける台風への対応に関し、官邸情報連絡室、外務省連絡室を立ち上げ。
- エ 19日、邦人保護及び被災者支援を強化するため、タクロバン市内に、在フィリピン大使館の臨時事務所を設置。

## **5. ASEAN を通じた支援**

我が国からの財政支援で運営されている ASEAN 緊急災害ロジスティック・システムを利用した救援物資の現地調達のため、12日、AHA センター(ASEAN 防災人道支援調整センター)から調整員1名が現地に派遣された。

## 6. 各国の対応(主要なもの)

米国	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 850 名以上の米軍兵士及びオスプレイを含む輸送部隊が活動中。空母及び複数の米海軍艦船が被災地に到着。病院船派遣も決定。</li><li>・ 4,700 万米ドル超の人道支援を発表。約 5 トンの支援物資を手交済み。</li></ul>
豪州	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 3,039 万豪ドルの支援を表明。3 名の災害専門家を派遣済み。</li><li>・ 22 トン分の緊急・医療物資、文民医療チーム（36 名）を輸送。</li><li>・ C-130 により、セブ・タクロバン間で避難民、要員等の輸送活動。</li><li>・ 揚陸艦「トブルック」がタクロバンへ向けて出発。</li></ul>
英国	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計 5,000 万ポンドの支援を発表。駆逐艦 1 隻と C-17 輸送機による物資輸送。空母「イラストリア」がフィリピンに向けて航行中。</li></ul>
ドイツ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計 650 万ユーロの緊急人道支援を発表。70 トンの支援物資を送付済み。赤十字及び連邦技術援助庁の専門家チームが現地で活動中。</li></ul>
ロシア	<ul style="list-style-type: none"><li>・ IL-76 輸送機 2 機を派遣、56 トン以上の救援物資を輸送（報道ベース）。</li><li>・ 200 人のレスキュー隊派遣の意向を表明（報道ベース）。</li></ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中国政府及び中国赤十字会からそれぞれ 10 万米ドルを拠出予定。約 160 万米ドル相当の救援物資の提供を表明。</li><li>・ 新たに緊急医療援助隊の派遣用意を発表（16 日）</li><li>・ 中国赤十字会より 1 名の専門家をフィリピンへ派遣。</li><li>・ 中国海軍の医療船「和平（Peace Ark）」派遣の意向表明。</li></ul>
韓国	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計 500 万米ドル規模の支援計画を決定。</li><li>・ 約 40 名の大韓民国緊急救護隊を派遣予定。</li><li>・ C-130 輸送機 2 機派遣の準備あり。</li></ul>

(了)